



相双支部ニュース

懇談会 令和6年度 福島県看護協会相双支部 「看護職責任者懇談会」

- 目的：**地域包括ケアシステム推進のため、各施設の看護管理者と行政保健師とのネットワークづくりを行う
- 日時：**令和6年9月6日（金）13：30～15：30 **場所：**南相馬市立総合病院

- 内容：1. 令和6年度 福島県看護協会事業計画 公益社団法人福島県看護協会 会長 佐藤博子様
2. 福島県看護連盟挨拶 福島県看護連盟 会長 佐藤美重様
3. 相双地域の健康課題の変化や現状について
福島県相双保健福祉事務所 副部長 専門保健技師 風間聡美様
4. 地域の健康課題解決に向けた各施設のさらなる取り組みについてグループでの意見交換

各病院や特別養護老人ホーム、老健施設、町役場、看護専門学校などから24名の参加者が集まりました。福島県看護協会佐藤会長より福島県看護協会の令和6年度重点事業として、看護職の育成支援や働き続けられる職場づくりの推進、協会入会促進の強化などの説明がありました。看護職賠償責任保険制度についても詳しい説明があり、リスクの備えはとても重要なことだと思いました。福島県看護連盟佐藤会長からは連盟の活動状況のお話を聞くことができました。専門保健技師の風間様からは、相双地域の健康データの現状分析や働き盛り世代の減塩実践チャレンジ事業など、健康づくりの活動内容の説明がありました。今年度は、2グループに分かれて各施設の健康課題解決に向けた地域に根付いた取り組みなどの意見交換が活発に行われました。患者さん、地域住民、職員の健康管理など課題は大きいですが、行政と施設間での連携を深め、自施設でもできることを取り入れながら活動していきたいと思いました。



研修会 令和6年度 福島県看護協会相双支部第1回看護研修会

- テーマ：**「もしものための話し合いにおける看護師自身の準備性」
講師：医療法人社団 はな 院長 原澤慶太郎氏
日時：令和6年9月7日（土）13：30～15：30
場所：南相馬市立総合病院



〈研修を受講して〉医療法人 仲裕会 渡辺病院 平島 樹羅

今回の研修では、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)や意思決定支援についての講義を受け、もしものための話し合いの時には患者の価値観や希望について話し合うというプロセスが重要であることを学びました。グループワークでは、「もしバナゲーム」を実施し、対話を通して自分の価値観を確認して他者の価値観にも触れることができました。様々な価値観があることを念頭に置き、私は、看護師として患者個人の思いを尊重し、対話を大切にして、患者さんに寄り添っていけるよう支援していきたいと思いました。



令和6年度相双支部看護研究発表会

日時：令和7年2月15日(土) 13:00～16:00 場所：音屋ホール



講評：医療創生大学看護学部教授 後藤恭一先生



〈目的〉相双支部会員が日頃の看護業務における気づきや疑問を追求し、看護研究を行うことにより、看護の質の向上を図る

第Ⅰ群 座長：医療法人 相雲会 小野田病院 松島ひろみ

演題・発表者	内容
 <p>1型糖尿病の患児、 家族との関りについて -ロイの適応モデルを 用いて- 公立相馬総合病院 山隅 愛李</p>	1型糖尿病の患児との関わりを振り返り考察した。患児は入院時血糖測定やインスリン注射の際、母や祖母の後ろに隠れ大暴れをしたり泣いたりする姿がみられた。そのため、治療に参加できるよう声かけや褒美シールを用いてチーム全体で関わった。それにより、少しずつ治療を受け入れられるようになり自宅へ退院することができた。これからも患者、家族の不安に寄り添えるような看護ができるよう知識を深め、自己研鑽していきたい。
 <p>老人保健施設における 排便コントロールへの 取り組み -オリゴ糖を使用して- 介護老人保健施設 厚寿苑 武内 こずえ</p>	入所者の便秘改善のため、オリゴ糖を8週間提供し排便コントロールを試みた。オリゴ糖投与前4週間の排便回数、下剤の投与状況と、オリゴ糖投与後1～4週間、5～8週間で得たデータを単純集計し比較検討した。その結果1.自然排便や便性状の改善がみられ、下剤使用による排便回数が減った2.利用者の体調に合わせたオリゴ糖と下剤の調整が必要である3.排便リズムを整え、自宅でも継続できる介護者との関わりが大切であるということが分かった。

第Ⅱ群 座長：医療法人社団 青空会 大町病院 鈴木悠司

演題・発表者	内容
 <p>甲状腺術後出血対応に ついての看護師の 意識調査 -シミュレーション 研修前後の調査結果から- 南相馬市立総合病院 荒 綾</p>	当院では甲状腺術後出血により創部開放・緊急気管切開についてのチームカンファレンスを行ってきた。今回、事例を元にシミュレーション研修を行い、その前後に看護師の意識の変化を要約した。臨床を想定し、シミュレーションすることで、対応についての理解度は上がったが、実践する不安が増大した結果であった。また、所属部署以外の看護師は知識不足があった。今後も定期的に研修を行い、緊急時の対応に自信を持つことができるようにしていきたいと考えた。
 <p>身体拘束に対しての 看護師の思い 公立相馬総合病院 土屋 光</p>	A病棟では認知症やせん妄を発症した患者に対して、患者の安全や医療事故の懸念から身体拘束が行われている。そのため、この現状について考え、見直す必要があると考えた。そこで、身体拘束に対しての不安や問題点について明らかにすることを目的に、看護師を対象にしたアンケートで意識調査を実施した。アンケートからは、様々な思いが読みとれた。結論として様々な理由から、多くの看護師が身体拘束は今後もなくしていくことはできないと考えているが、同時に悩みや葛藤を抱えていることが分かった。今後も、身体拘束について病院全体で取り組む必要があると考えた。

演題・発表者	内 容
 <p>外来看護業務からの タスク・シフト ／シェアへの取り組み 医療法人伸裕会渡辺病院 山本 美代子</p>	<p>看護の専門性を発揮するために、外来看護師が行っている造影CT検査時の静脈路確保を診療放射線技師と協働しタスク・シェアに取り組んだ。この研究を通してチーム医療の重要性を再認識できたため、今後の業務改善に活かしていきたいと考えた。また、タスク・シフト／シェアへの取り組みは十分な準備と、共通理解が大切であることが明確となった。</p>
 <p>看護管理者が新人看護師の 夜勤独り立ちの可否を 判断する基準に関する 重要度調査 南相馬市立総合病院 松本 こそえ</p>	<p>新人看護師の夜勤導入は、標準化された基準や導入基準がなく、導入時期や夜勤までの達成目標は、病院や各部署での采配で行っている現状である。新人看護師の夜勤独り立ちの可否の判断基準を明らかにすることで、新人看護師の適切な夜勤業務開始の判断基準や夜勤業務に向けた教育支援の構築となると考えた。看護管理者の8割以上が、新人看護師が夜勤業務を独り立ちの可否を判断するのに重要であると回答した項目は、①コミュニケーション2項目②知識2項目③技術7項目④情報処理能力2項目⑤本人の自覚4項目(抄録参照)であり、病態に沿った基本的な観察・基本的な技術・報告相談を含む基本的な態度が、夜勤独り立ち可否の項目として挙げられた。今後、新人看護師の夜勤独り立ち判断基準案を作成し、その有用性の検討を行っていくことが今後の課題である。</p>

寄稿

相双支部看護研究発表会の解説

医療創生大学 看護学部教授
相馬看護専門学校 非常勤講師
後藤 恭一 先生

2025年問題として知られる大きな転換期を今年迎えました。高齢率に着目されがちですが、生産年齢人口の減少、やがて生産年齢人口となる出生数激減が問題の本質です。看護領域でもDXを活用した働き方改革が求められますが、5席は業務を他職種に「移管」し「共同化」する、医療従事者の負担軽減として期待される、タスク・シフト/シェアに着目しています。働き手不足が進行する今、非常にタイムリーな研究です。

日進月歩で進むDXですが、1席の研究はDXでも達成が難しい患児を相互関係から考察する含蓄深い内容です。また政府は身体拘束ゼロ目標に掲げていますが、4席は「身体拘束は今後もなくして行くことはできない」と結論していました。DXにより身体拘束ゼロにする、未来の看護を切に願います。

看護研究らしい研究として、2席はデザインもさることながら、患者の侵襲性を抑えつつ、安価なオリゴ糖に介在した点が評価出来ます。3席は理解や意識を尋ね、洞察深い考察がなされ「自信を持たせることが、次の行動に繋がる」と含蓄深い結論でした。研究は実践とかけ離れたものと捉えがちですが、看護研究は日常の看護から産まれる良い例です。

6席の高く評価する点は演題目の明瞭性です。画竜点睛(事を成就するための最後大切な仕上げ)が演題名だからです。この春、数名の学生達が相双地区に入職します。何卒よろしくお願い致します。



看護の出前講座

福島県看護協会は、福島県の委託を受けて、医療職種の魅力発信事業として「看護の出前講座」を実施しています。今年度の活動状況を報告いたします。

南相馬市立石神第二小学校

令和6年9月10日に南相馬市立石神第二小学校6年生を対象に南相馬市立総合病院の助産師2名で看護の出前講座を行いました。

「性について考えよう」というテーマで、第二次性徴の特徴といのちの誕生について講義をさせて頂きました。児童の皆さんは、真剣に受講されており、思春期の身体の変化について理解されている様子でした。受講後には、「生まれてきたことが奇跡だと思った」「命を大切にしたい」「親に感謝を伝えたい」「健康に過ごせていることが幸せなこと」などの感想を頂きました。とても有意義な時間となりました。

南相馬市立総合病院 田代正美 鈴木洋美



相馬市立磯部小・中学校

令和6年10月30日、相馬市立磯部小・中学校に公立相馬総合病院から看護師3名で訪問しました。この地域は東日本大震災の時に、津波で多くの犠牲者が出た地域です。学校側から救急処置について講義をしてほしいと要望がありました。始めに、校長先生が「自分達の命を守るために・・・」と生徒さんに話され、この看護の出前講座を通して、命を守る看護師の役割を再認識する機会になりました。



次に「骨折時の対応」「鼻出血の対応」「傷の手当」については、実際に体験してもらいながら説明しました。包帯に触るのが初めての生徒さんばかりでしたが、とても上手に巻くことができました。また、三角巾の代替えとしてビニールのレジ袋を活用した方法を体験してもらうなど、一生懸命に話を聞いてくれる児童、生徒の皆さんの姿に感動しました。一緒に参加していた先生方からも「傷を水で洗う事や鼻血は鼻に紙を詰めて対処するものだと思っていたので、我々も勉強になりました」と感想を頂きました。

公立相馬総合病院 千葉浩子 石橋祐亮 内橋友香

編集後記

今年度も2回の支部ニュースを発行することが出来ました。誌面作成に当たりご協力頂いた皆様には、深く感謝いたします。今後も会員の皆様のお役に立てる情報を発信していけるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願い致します。

広報活動委員：中田邦子 川上久美子 梅橋美幸 久米本江里 高村めぐみ